



当行は、環境省認定
「エコ・ファースト企業」です。

「環境金融」で低炭素社会へ



当行は、気候変動キャンペーン
「Fun to Share」に賛同しています。

第133期

事業の ご報告

2019年4月 1日～2019年9月30日

未来を描き、
夢をかなえる。

Sustainability
Design Company



 **滋賀銀行**

発行／2019年12月

編集／滋賀銀行 総合企画部 広報室

電話／077(521)2202

<https://www.shigagin.com>



LINE



Facebook

SHIGA BANK

ごあいさつ

皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

当行は2019年4月、「未来を描き、夢をかなえる」をメインテーマとする第7次中期経営計画(2024年3月まで)をスタートさせました。初年度となる本中間会計期間における日本経済は、中国をはじめとする海外経済の減速や長引く米中貿易摩擦などの影響が実体経済に波及しつつありました。このような状況のもと、親会社株主に帰属する中間純利益は長引くマイナス金利の影響などにより、前年同期比6,900万円減の86億円となりました。

取り巻く経営環境は厳しいですが、持続可能な地域社会を皆さまと「共創」していくことで、明るい未来を切り開いていきたいと思えます。このため今次中計では、銀行の発想の枠を超え、「地域になくってはならない企業になる」との決意を込めて、当行の目指す姿を「Sustainability Design Company」としました。

人口減少や少子高齢化による地域経済の縮小、事業承継問題、デジタル化の進行やライフスタイルの変化によるニーズの多様化などで、地域社会には解決すべき課題が山積しています。当行は、その課題解決に向け、従来の「金融仲介業」から「課題解決型金融情報サービス業」へ進化し、これまで以上に地域の皆さまに溶け込み、ともに明るい未来を語り、その実現に向けて具体的に行動してまいります。

これからも皆さまのより一層のご愛顧、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2019年12月

取締役頭取

高橋 祥一郎

CSR憲章「経営理念」

私たちは、伝統ある近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神を継承した行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」をCSR(企業の社会的責任)の原点とし、社会の一員として「共存共栄」を実現してまいります。

行是
自分にきびしく
人には親切
社会につくす

地域社会との 共存共栄

地域とともに歩む銀行として、お客さまの信頼と期待にお応えするため、「健全」と「進取」の精神を貫き、地域社会の発展に努めます。

役職員との 共存共栄

役職員一人ひとりの人権や個性を尊重し、働きがいのある職場づくりに努め、心身ともに「グリーンバンクしがぎん」の実現に努めます。

地球環境との 共存共栄

琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として「環境経営」を実践し、地球環境を守り、持続可能な社会づくりに努めます。

滋賀銀行データ

名称	株式会社 滋賀銀行 THE SHIGA BANK, LTD.
本店所在地	滋賀県大津市浜町1番38号
設立	1933年10月1日
総資産	6兆1,116億円
預金残高	4兆9,273億円 (譲渡性預金含む)
貸出金残高	3兆7,929億円
資本金	330億円
従業員	2,085人
店舗数	133カ店(うち代理店25カ店) (2019年9月30日現在)

CONTENTS

●ごあいさつ	1
●トピックス① 地域に広がるSDGs	3~4
●第7次中期経営計画	5~6
●個人のお客さまへ	7~8
●法人のお客さまへ	9~10
●CSRの取り組み	11~12
●財務データ	13~20
●トピックス② TSUBASAアライアンス	21
●トピックス③ 環境メッセージ	22
●連結財務諸表	23~24
●単体財務諸表	25~26
●株式の状況/株式会社のご案内	27~28
●役員一覧・グループ会社	29
●トピックス④ 金融教育	30

トピックス
TOPICS ①
「SDGs」

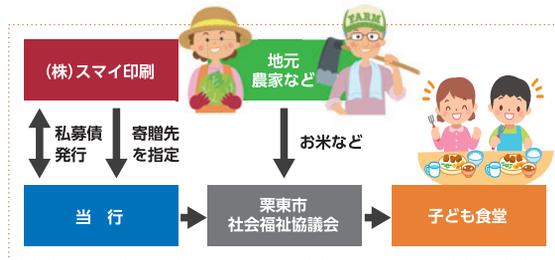
地域に広がる SDGs

～ SDGsで地域を明るく持続 可能に～

SDGs (持続可能な開発目標) をきっかけとした、地域の課題 解決に向けた取り組みの輪が少しずつ広がっています。

SDGs私募債ですべての子どもたちに明るい未来を 精米機で子ども食堂の運営を応援!

9月2日(月)、株式会社スマイ印刷様(栗東市)のSDGs私募債発行を記念して、栗東市社会福祉協議会様に精米機1台を寄贈しました。栗東市社会福祉協議会様は、地元農家などから寄付されたお米を市内7ヵ所の子ども食堂に提供されてきましたが、保存や精米に苦勞をされていました。株式会社スマイ印刷様は、この子ども食堂に対する支援の取り組みに賛同され、協議会様を寄贈先にご指定。今回、当行が寄贈した精米機を活用いただくことで、保存している玄米を必要に応じてタイムリーに子ども食堂に提供することが可能となりました。



「SDGsビジネス・マッチングフェア2019」開催!

2008年より開催している「エコビジネスマッチングフェア」の出展対象を拡大し、「SDGsビジネス・マッチングフェア」にリニューアルしました。当日は、SDGsの達成に貢献するビジネスを手掛ける117社・団体が出展。1,519名の皆さまにご来場いただき、商談件数は935件と過去最高となりました。来場者からは、「フェアを通じてSDGsを初めて知った」「SDGsをビジネスに生かしたい」などのご意見を数多くいただきました。



営業店でもSDGsを 地域に広げる活動を展開しています!

私たちの子どもや孫の世代まで明るい未来を描き、かなえられる世界を実現するには、「一人ひとりがSDGsを理解して、“自分ごと”として行動に移すこと」が大切です。当行では、各店が独自の工夫を凝らした展示やイベントを通じて、地域の皆さまにSDGsを広げる活動を展開しています。



大藪支店



稲枝支店

第7次中期経営計画

メインテーマ

「未来を描き、夢をかなえる」

2019年4月より、第7次中期経営計画がスタートしました。メインテーマは「未来を描き、夢をかなえる」。自分らしく未来を描き、誰もが幸せに暮らせる社会を目指して、お客さま、地域の夢実現や課題解決を起点とする具体的な行動に努めてまいります。

～経営計画のアクションの起点となる指標～

サステナビリティビジョン(長期ビジョン)

地域の明るい未来を実現し、当行が果たすべき責任と役割を認識するための長期的なビジョンを策定しました。



※詳細は当行ホームページにて掲載しています。

第7次中期経営計画(2019年4月～2024年3月)

概要

目指す姿

「Sustainability Design Company」
～「三方よし」から「共存共栄」の実現へ～

メインテーマ

未来を描き、夢をかなえる
～お客さま・地域社会・役職員の未来をともに～

未来創造 挑戦項目



挑戦指標

挑戦指標		2022年3月計画	2024年3月計画
SD目標※	Sustainable Development 推進投資	(新規投資総額累計) 5,000億円	
	地域顧客の価値向上サポート (コンサルティング相談件数)	年間850件	年間1,000件
	地域顧客の資産形成サポート (預り資産残高「投資信託+金融商品仲介」)	2,200億円	3,000億円
	温室効果ガス排出量削減(%) (2013年度比較の削減率)		25%削減
	SDGs・金融リテラシーの普及・向上活動 (次世代人材の育成活動)	(研修等の実施人数累計) 5,000人	
収益目標	親会社株主に帰属する当期純利益(連結)	最終年度 100億円以上	
	顧客向けサービス業務利益	20億円	30億円

(※)SD(Sustainable Development)目標…地域の持続的発展につなげる目標

長期的挑戦指標	長期的指標
ROE(連結)	5%以上
OHR	65%未満



生涯にわたって「頼れる しがぎん」へ

～人生100年時代のパートナーとして～ お客さまの資産形成をサポート

お客さまのライフプランに応じた適切な商品・サービスの提供に努めています。

10歳代	20歳代	30～40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以降
	就職	結婚／子育て／マイホーム		セカンドライフ	相続
ジュニアNISA	積立型商品 (iDeCo(個人型DC)、NISA(一般、つみたて)、投信積立、平準払型保険)			退職金スペシャル定期 退職金専用ツイプラン	贈与 遺言／相続
				年金定期	
資産運用アドバイザー・休日相談店舗での資産運用相談					
保険コンサルティング(各種保険の見直し、医療保険・がん保険の取り扱い)					

『しがぎん』で資産形成

豊富なラインナップからお客さまのニーズに合った質の高い提案と、アフターフォローを行います。

ライフプランガイドをご活用ください



お客さまのライフステージに合わせたご提案や資産形成に有効な制度・各種商品のご案内など、お客さまに役立つ情報を掲載しております。

お客さまの声を大切にしています

お客さまの声を大切にしています

店頭へ設置の「コミュニケーションカード」や、郵送による「お客さまアンケート」等を通じてお客さまの声を聴きし、いただくご意見は、当行が発展していくための大切な「財産」であるとの考えで商品・サービスの改善に取り組んでいます。また、年に一度外部機関によるモニタリングを実施し、店頭での対応状況の点検、改善に努めています。



さまざまなチャネルで資産運用をお手伝い！

将来の資産づくりをお手伝いするため、当行ではニーズに合わせた商品ラインナップを取り揃えております。

また、個人のお客さま向けの資産運用セミナーを月2回程度、休日相談店舗で開催するとともに、企業の従業員の皆さまへの金融教育のお手伝いも実施しております。

各支店・出張所でも担当者が資産運用のご相談を承っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

休日相談店舗

土・日・祝日も営業。(9:00～17:00)
資産運用のご相談ができます。

南草津 守山 大薮

ご予約について

<https://www.shigagin.com/personal/support/personal.html>





企業のライフステージに応じた 最適なソリューションを提供します

～お客さまの幅広いご相談にお応え～
コンサルティング業務



中小企業診断士や1級ファイナンシャル・プランニング技能士等の資格を持つ行員が、外部機関や専門家と連携し、企業のライフステージに応じたさまざまな課題解決をお手伝いします。

新規事業の創造を目指して

ニュービジネスサポート「サタデー起業塾」

旺盛な起業家精神をサポートするため、「サタデー起業塾」によりビジネスのヒントを提供。ビジネスプランコンテスト「野の花賞」では、新規性の高い事業に取り組まれている事業者を表彰しています。



円滑な事業承継による持続可能な地域経済の実現 事業承継・M&A

経営者の高齢化、後継者不足等、中小企業において事業承継対策が大きな課題となっております。お客さまへのコンサルティングを通じ、またTSUBASAアライアンス参加行のネットワークも活用することで、円滑な事業承継による持続可能な発展を実現いただけるようサポートしています。

SDGsコンサルティング

事業者の皆さまの「SDGsを経営に取り入れるためのサポートをしてほしい」というご要望にお応えするため、サポートメニューの一つとして、2019年6月より「SDGsコンサルティング」を開始しました。

SDGsの手引書である「SDG Compass」に示された5ステップ (SDGsの理解・優先課題の決定・目標の設定・経営への統合・報告とコミュニケーション)



を円滑に進めていただけるようサポートしています。

また、お客さまに寄り添ったサポートの充実を目指して、行員向けの勉強会などを随時開催し、レベルアップに努めています。



美しい琵琶湖を引き継 幅広い活動を進めてい

いでいくために ます。

環境推進企業としての地球環境保全の取り組み

「エコ・ファーストの約束」を更新

6月18日、環境保全への取り組みに対する約束書「エコ・ファーストの約束」を更新し、環境大臣に提出しました。

2008年7月、当行は業界初の「エコ・ファースト企業」に認定され、以降業界のトップランナーとして環境経営に取り組んでいます。今回の約束は、「しがぎんSDGs宣言」の3つの重点取組項目「地域経済の創造」「地球環境の持続性」「多様な人材の育成」に基づく内容としました。

エコ・ファースト制度とは？

各業界における環境トップランナー企業を認定し、その取り組みを促進するため、2008年4月に環境省によって創設されたもの。認定企業は、地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策、生物多様性保全など自らの環境保全に関する取り組みを「エコ・ファーストの約束」として環境大臣に約束し、大臣は、環境の分野において「先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動」に取り組んでいる企業として認定します。



詳細は
こちら



環境金融商品を通じて

「ニゴロブナ・ワタカ放流事業」へ 寄付を行いました！

琵琶湖の生態系を保全するため、8月26日、公益財団法人 滋賀県水産振興協会の「ニゴロブナ・ワタカ放流事業」へ120万円を寄付しました。これは、お客さまにATMなどからお預けいただく『しがぎん』エコプラス定期や「ネット投信電子交付サービス」のご利用により削減された紙資源相当額をもとに寄付しているもので、今回は琵琶湖にニゴロブナ2万匹とワタカ1万5千匹の稚魚が放流される予定です。



琵琶湖の生物系を守る

“いきものがたり”活動

魚の産卵場所であるヨシ群落を守り・育て、琵琶湖の固有種で絶滅危惧種のニゴロブナやワタカを保護・育成・放流し、侵略外来魚を駆除するなど、滋賀県ならではの“いきものがたり”活動を展開しています。この活動は、環境リテラシーの高い人材の育成にもつながっており、各地域の環境ボランティア活動にも積極的に参加しています。



ヨシ苗植え
魚の産卵場所である
ヨシ群落の再生



ヨシ刈り
ヨシを刈り取ることで
新芽の成長を促進。
刈り取ったヨシは、
名刺に使うヨシ紙に
生まれかわります。

“いきものがたり” 活動



外来魚
琵琶湖の生態系保全のため侵略外来魚を駆除



放流
琵琶湖の固有種であるニゴロブナ・ワタカを放流



お客さまと地域の成長のために、 ともに歩んでまいります

個人・法人ともに順調に増加

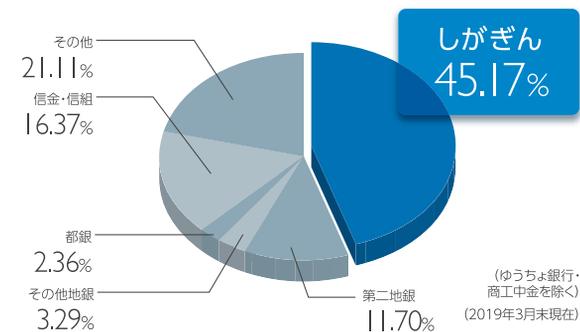
預金等

当期も地域の皆さまからのご支持を受けて、期中平均残高は前年同期比1,530億円増加し、4兆9,300億円と順調に推移しています。コアとなる個人預金の期中平均残高は3兆5,552億円で同919億円の増加となりました。

預金等（譲渡性預金含む）期中平均残高



預金残高「滋賀県内シェア」



※小数点第3位以下四捨五入

事業性・消費者向け・地方公共団体向け貸出ともに増加

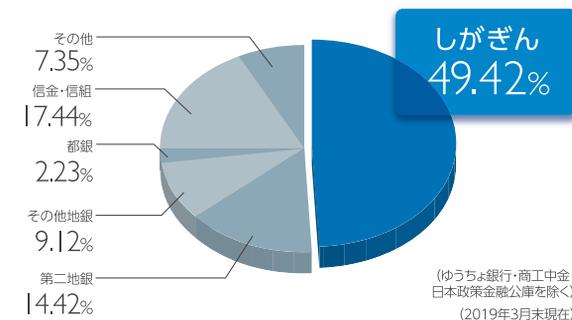
貸出金

当期も、事業性貸出・消費者向け貸出・地方公共団体向け貸出がそれぞれ増加し、期中平均残高は3兆7,748億円となりました。前年同期比1,187億円、3.24%の増加となりました。

貸出金 期中平均残高



貸出金残高「滋賀県内シェア」



※小数点第3位以下四捨五入



資産の運用も お任せください

多様な資産運用ニーズを親身にサポート

預り資産 残高

投資信託、公共債等の預り資産残高（取扱保険料累計額含まず）は、2,361億円で、前年同期末比71億円の増加、うち個人の預り資産残高は2,176億円で、同42億円の増加となりました。期中販売額は投資信託が36億円減少の160億円、保険が8億円減少の142億円となりました。

預り資産残高



投資信託・保険期中販売額



格付は安心の 「Aクラス」を確保

2つの格付機関が「A+」と高い評価

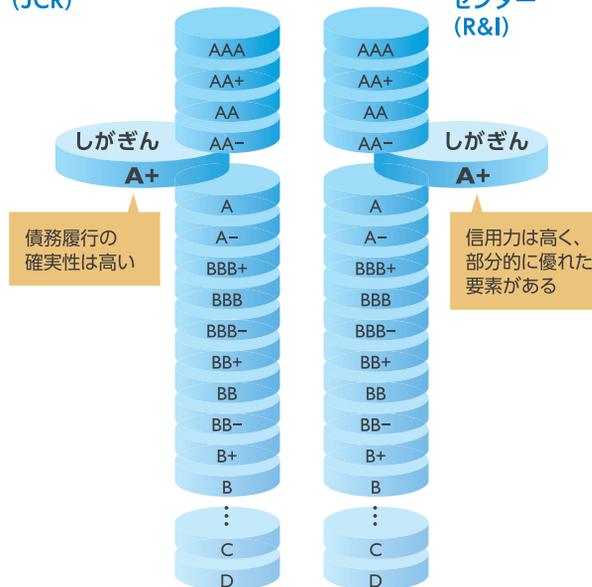
格付

「大切なお金は、安心できる銀行に預けたい」。格付はお客さまに安心して銀行をお選びいただくひとつの目安となる外部評価です。

当行は、2つの格付機関からともに「A+」を取得し、信用度について高い評価をいただいています。

日本格付研究所 (JCR)

格付投資情報センター (R&I)



用語説明

格付

銀行預金の元金支払の確実性や安全性について、利害関係のない第三者が判断してその結果を簡潔な記号で表したものです。銀行を判断するうえで、安全性・信用度を客観的に評価した重要な指標のひとつです。



これからも「安全」「健全」な経営に努めます

自己資本比率も国際統一基準を大きくクリア

自己資本比率 (連結)

自己資本比率は、銀行の安全性、健全性を測る指標のひとつです。当行のように海外に営業拠点を持つ銀行は、国際統一基準を満たしていなければなりません。当行の自己資本比率は15.94%（バーゼルⅢ基準、2019年9月末、連結ベース）と国際統一基準を大きくクリアしています。

2019年9月末

	実績	最低所要比率
連結 総自己資本比率	15.94%	8.0%以上
同 Tier1比率	15.13%	6.0%以上
同 普通株式等Tier1比率	15.13%	4.5%以上

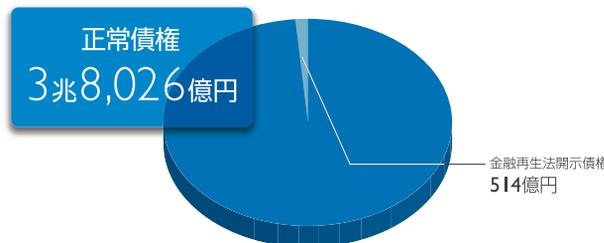
※バーゼルⅢ基準による自己資本比率を算出しております。

(ご参考:自己資本比率推移)



不良債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の合計は前期末(2019年3月末)比11億円減少し514億円、総与信に占める比率は1.33%で同0.03%の低下となりました。また、貸倒引当金や担保などによる保全率は71.99%で同1.45%の低下となりました。



金融再生法開示債権



用語説明

不良債権比率

貸出金等の総与信残高に占める不良債権の割合です。不良債権比率が低いほど、資産の質は高くなります。銀行ごとにその資産総額の規模が異なることから、この比率が銀行の健全性をみる指標のひとつになります。

用語説明

自己資本比率

銀行の安全性、健全性を判断する基準のひとつに、自己資本比率があります。海外に支店を有する国際統一基準行では新たな自己資本比率規制（バーゼルⅢ）が2013年3月期決算から段階的に導入され、各最低所要比率を満たす必要があります。

お知らせします、 しがぎんの業績



業績ハイライト

- 有価証券利息配当金は前年同期比2億円増加しました。一方で、貸出金利息は前年同期比2億円減少、預金等利息をはじめとする資金調達費用が増加し、資金利益は同6億円減少しました。
- 役務取引等利益は前年同期比2億円増加、その他業務利益は同7億円減少し、業務粗利益は同12億円の減益となりました。
- 経費はシステム投資等による物件費の増加を主因として、全体で前年同期比8億円増加しました。
- 臨時損益は、株式等関係損益が前年同期比24億円減少したこと等により、全体で同27億円減少し、経常利益は同54億円の減益となりました。一方、滋賀県外の不動産を売却したこと等により特別損益が前年同期比47億円良化しました。また、法人税等合計は前年同期比3億円減少しました。
- これらの結果、中間純利益は78億円となり前年同期比2億円の減益となりました。

業務粗利益

銀行本来の業務（貸出業務、為替業務、有価証券運用など）から得た利益です。

単位：億円



業務純益

一般企業でいう営業利益にあたります。業務純益 = 業務粗利益 - 経費（人件費、物件費など） - 一般貸倒引当金繰入額 単位：億円



経常利益

業務純益から株式の売却損益や不良債権処理に関わる費用などをプラス・マイナスした利益です。

単位：億円



中間純利益

経常利益から法人税や事業税等を差し引いた最終的な利益です。

単位：億円



トピックス

TOPICS ②

TSUBASA アライアンス

地銀最大のアライアンスで、最大のシナジーを追求

「TSUBASAアライアンス」に参加

2019年5月、付加価値の高い金融サービスの提供による地域社会の持続的な成長に貢献すべく、「TSUBASAアライアンス」に参加しました。併せて「TSUBASA SDGs宣言」を発表し、アライアンスにより結集した知見を活用しながら、それぞれの地域の社会・環境問題に取り組んでいくことを誓いました。

「TSUBASAアライアンス」参加行



アライアンスの目的

- ・地域の持続的な成長
- ・金融システムの高度化
- ・参加行グループの企業価値増大に資する連携施策の立案、推進
- ・トップラインの増強
- ・コスト削減に寄与する施策の立案、推進

～進む!「TSUBASAアライアンス」を通じた取り組み～

「バンコクビジネス交流会」を開催(9月5日)

TSUBASAアライアンス参加行共同で、企業の皆さまの情報交換とビジネスマッチングを目的とした異業種交流会を開催しました。

M&A業務プラットフォームを構築(10月3日)

M&Aニーズを登録する共通のデータベースを構築し、マッチング候補企業について、TSUBASA行同士で情報交換を行い、紹介先をより幅広く選定できるようになりました。

トピックス

TOPICS ③

びわ湖環境 ビジネスメッセ 2019

SDGsの普及、啓発イベントを実施

「びわ湖環境ビジネスメッセ2019」に出展

10月16日～18日の3日間、環境産業の育成振興を目的として開催された「びわ湖環境ビジネスメッセ2019」に、株式会社しがぎん経済文化センターと共同でブースを出展しました。

当行は、「SDGsを“自分ごと”に～しがぎんが地域と描く2030～」をテーマに、参加型のブースを展開。来場された方々に特大のルーレットを回していただき、針が止まったSDGs項目の達成につながる行動を「わたしのSDGs宣言」として表明いただきました。最終日には、400名分の宣言で作られた「SDGs」の文字がブースに浮かび上がりました。参加者からは「SDGsは難しいものと思っていたが、自分にも取り組める身近なものだと分かった」「他のさまざまな宣言にも取り組んでみよう」などの声をいただき、多くの方々にSDGsを知っていただくことができました。



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(2019年9月30日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	807,741	預金	4,822,159
コールローン及び買入手形	1,295	譲渡性預金	86,560
買入金銭債権	3,685	コールマネー及び売渡手形	81,009
商品有価証券	148	債券貸借取引受入担保金	187,112
金銭の信託	14,355	借入金	395,246
有価証券	1,371,873	外国為替	242
貸出金	3,774,294	新株予約権付社債	21,584
外国為替	7,967	その他負債	46,782
その他資産	86,456	退職給付に係る負債	912
有形固定資産	54,148	役員退職慰労引当金	4
無形固定資産	2,278	睡眠預金払戻損失引当金	441
繰延税金資産	609	利息返還損失引当金	25
支払承諾見返	28,488	偶発損失引当金	190
貸倒引当金	△27,206	繰延税金負債	41,734
		再評価に係る繰延税金負債	6,818
		支払承諾	28,488
		負債の部合計	5,719,314
		(純資産の部)	
		資本金	33,076
		資本剰余金	24,536
		利益剰余金	217,743
		自己株式	△5,898
		株主資本合計	269,458
		その他有価証券評価差額金	131,698
		繰延ヘッジ損益	△7,662
		土地再評価差額金	10,762
		退職給付に係る調整累計額	2,445
		その他の包括利益累計額合計	137,244
		新株予約権	120
		純資産の部合計	406,822
資産の部合計	6,126,137	負債及び純資産の部合計	6,126,137

中間連結損益計算書

(2019年4月1日から2019年9月30日まで)

(単位:百万円)

科目	金額	
経常収益		44,684
資金運用収益	25,930	
(うち貸出金利息)	(18,618)	
(うち有価証券利息配当金)	(7,159)	
役員取引等収益	7,590	
その他業務収益	8,597	
その他経常収益	2,566	
経常費用		37,538
資金調達費用	3,989	
(うち預金利息)	(1,308)	
役員取引等費用	2,320	
その他業務費用	7,746	
営業経費	21,585	
その他経常費用	1,896	
経常利益		7,146
特別利益		5,002
固定資産処分益	5,002	
特別損失		225
固定資産処分損失	44	
減損	180	
税金等調整前中間純利益		11,924
法人税、住民税及び事業税	3,309	
法人税等調整額	△22	
法人税等合計		3,287
中間純利益		8,636
親会社株主に帰属する中間純利益		8,636

中間単体財務諸表

第133期中 中間貸借対照表

(2019年9月30日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	807,640	預 金	4,827,287
コールローン	1,295	譲 渡 性 預 金	100,040
買入金銭債権	3,685	コ ー ル マ ネ ー	81,009
商品有価証券	148	債券貸借取引受入担保金	187,112
金銭の信託	14,355	借 用 金	390,249
有価証券	1,375,012	外 国 為 替	242
貸 出 金	3,792,929	新株予約権付社債	21,584
外国為替	7,967	そ の 他 負 債	31,013
その他資産	49,363	未払法人税等	2,841
その他の資産	49,363	その他の負債	28,171
有形固定資産	53,856	退職給付引当金	4,305
無形固定資産	2,193	睡眠預金払戻損失引当金	441
支払承諾見返	28,488	偶発損失引当金	190
貸倒引当金	△25,311	繰延税金負債	40,450
		再評価に係る繰延税金負債	6,818
		支 払 承 諾	28,488
		負債の部合計	5,719,234
		(純資産の部)	
		資 本 金	33,076
		資 本 剰 余 金	23,942
		資 本 準 備 金	23,942
		利 益 剰 余 金	206,994
		利 益 準 備 金	9,134
		その他利益剰余金	197,859
		固定資産圧縮積立金	400
		別 途 積 立 金	186,893
		繰越利益剰余金	10,565
		自 己 株 式	△5,898
		株 主 資 本 合 計	258,114
		その他有価証券評価差額金	131,055
		繰延ヘッジ損益	△7,662
		土地再評価差額金	10,762
		評価・換算差額等合計	134,155
		新 株 予 約 権	120
		純資産の部合計	392,390
資産の部合計	6,111,625	負債及び純資産の部合計	6,111,625

第133期中 中間損益計算書

(2019年4月1日から2019年9月30日まで)

(単位:百万円)

科目	金額	金額
経 常 収 益		36,106
資 金 運 用 収 益	25,911	
(うち貸出金利息)	(18,614)	
(うち有価証券利息配当金)	(7,147)	
役 務 取 引 等 収 益	6,301	
そ の 他 業 務 収 益	1,310	
そ の 他 経 常 収 益	2,583	
経 常 費 用		30,200
資 金 調 達 費 用	3,978	
(うち預金利息)	(1,309)	
役 務 取 引 等 費 用	2,470	
そ の 他 業 務 費 用	997	
営 業 経 費	20,800	
そ の 他 経 常 費 用	1,954	
経 常 利 益		5,905
特 別 利 益		5,002
固 定 資 産 処 分 益	5,002	
特 別 損 失		225
固 定 資 産 処 分 損	44	
減 損 損 失	180	
税 引 前 中 間 純 利 益		10,683
法人税、住民税及び事業税	2,950	
法 人 税 等 調 整 額	△95	
法 人 税 等 合 計		2,854
中 間 純 利 益		7,828

株式の状況をお知らせします

株式の状況 (2019年9月末現在)

発行済株式総数	53,090千株
株主数	10,817人

大株主の状況 (2019年9月末現在)

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,117	4.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,936	3.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,704	3.33
日本生命保険相互会社	1,610	3.14
明治安田生命保険相互会社	1,599	3.12
滋賀銀行従業員持株会	1,241	2.42
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,180	2.30
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	1,171	2.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,154	2.25
JP MORGAN CHASE BANK 385151	813	1.59
計	14,531	28.41

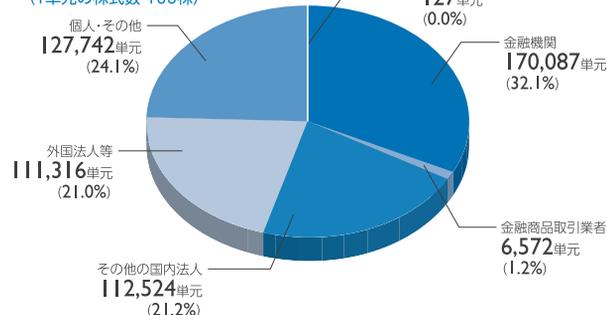
※当行は自己株式1,947千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合は3.66%)を所有しておりますが、上記大株主には記載しておりません。
※持株比率は発行済株式(自己株式を除く)の総数に対する所有株式数の割合です。

株式の所有者別状況 (2019年9月末現在)

※自己株式1,947,008株は、「株式の状況 個人・その他」に19,470単元、「単元未満株式の状況」に8株含まれております。

● 株式の状況

(1単元の株式数 100株)



● 単元未満株式の状況 253,281株

株式のご案内

事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

基準日

定時株主総会の議決権 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日

定時株主総会

毎年6月に開催いたします。

公告方法

電子公告により当行ホームページ(<https://www.shigagin.com/>)に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

単元株式数

100株

注)2018年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。また、これに併せて同日付で5株を1株に株式併合いたしました。

株主名簿管理人／特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

郵便物送付先／各種お問い合わせ先

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

● 各種事務に関するご照会 電話0120-094-777(通話料無料)

[受付時間 9:00~17:00(土、日、祝日、12月31日~1月3日を除く)]

● ホームページアドレス <https://www.tr.mufj.jp/daikou/>

三菱UFJ信託銀行の本支店でもお取り次ぎいたします。

株式に関する各種手続き

「届出住所・姓名などの変更」、「配当金の振込先の指定または変更」、「単元未満株式の買取・買増請求」などにつきましては、口座を開設されている証券会社(証券会社に口座開設されていない株主さまは、上記の三菱UFJ信託銀行)へお申し出ください。

未受領配当金(ゆうちょ銀行の払渡期間経過後)のお支払いにつきましては、上記の三菱UFJ信託銀行までお申し出ください。

役員一覧

取締役会長	大道良夫	監査役	林 一義
取締役頭取(代表)	高橋祥二郎	監査役	長谷川雅人
専務取締役(代表)	今井悦夫	※2 監査役(非常勤)	西川 聡
常務取締役	大野恭永	※2 監査役(非常勤)	松井保仁
常務取締役	西 基宏	執行役員	中島浩之
常務取締役	西藤崇浩	執行役員	竹村雅人
常務取締役	久保田真也	執行役員	青木和夫
取締役	堀内勝美	執行役員	川口宏治
※1 取締役(非常勤)	安井 肇	執行役員	西川勝之
※1 取締役(非常勤)	竹内美奈子	執行役員	岸田寛司
		執行役員	田中伸幸

※1は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 ※2は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

連結子会社 (2019年9月30日現在)

会社名	主な事業内容
しがぎんコンピュータサービス株式会社	事務計算受託業務
しがぎんビジネスサービス株式会社	事務代行業務、不動産管理業務
株式会社しがぎん経済文化センター	コンサルティング業務
株式会社滋賀ディーシーカード	クレジットカード業務、信用保証業務
しがぎんリース・キャピタル株式会社	リース・投資業務
しがぎん代理店株式会社	銀行代理店業務
株式会社しがぎんジェーシーピー	クレジットカード業務
しがぎんキャッシュサービス株式会社	現金精査・整理、ATM管理業務
滋賀保証サービス株式会社	信用保証業務、貸出担保評価・管理業務

トピックス TOPICS ④ 金融教育

子どもたちの金融リテラシーを育む
金融教育に取り組んでいます

子どもたちの自立する力、社会と関わる力の醸成に貢献することを目的に、銀行の仕組みやお金の役割について学ぶ金融教育に取り組んでいます。6月1日には「スプリングフェスタin矢橋帰帆島公園～こどもワクワクワンダーランド～」にブースを出展し、一億円と同じ重さのレプリカ持ち上げ体験や、“おこづかい通帳”を使用したお買い物体験など、楽しいアトラクションを通じた金融教育を実施しました。



本年度
初開催!

～実社会でのデータ分析を体験!～

滋賀大学データサイエンス学部生向け インターンシップを実施

滋賀大学との包括連携協定の一環として、9月11日より3日間、「企業間の振込取引データから何が見えるか」というテーマで、実データ※を活用した分析を行うインターンシップを実施しました。データ整理の大変さや、さまざまな制約の中で分析する難しさなど、現場ならではのリアルな感覚を実感いただくとともに、事業活動において、データ分析がいかに重要となっているかを知っていただく機会となりました。
 ※データは個人情報が入り込まない形式での数値データを活用しています。



当行員も加わり、分析内容を整理します。



緊張しつつも堂々とした様子で、成果を発表いただきました。